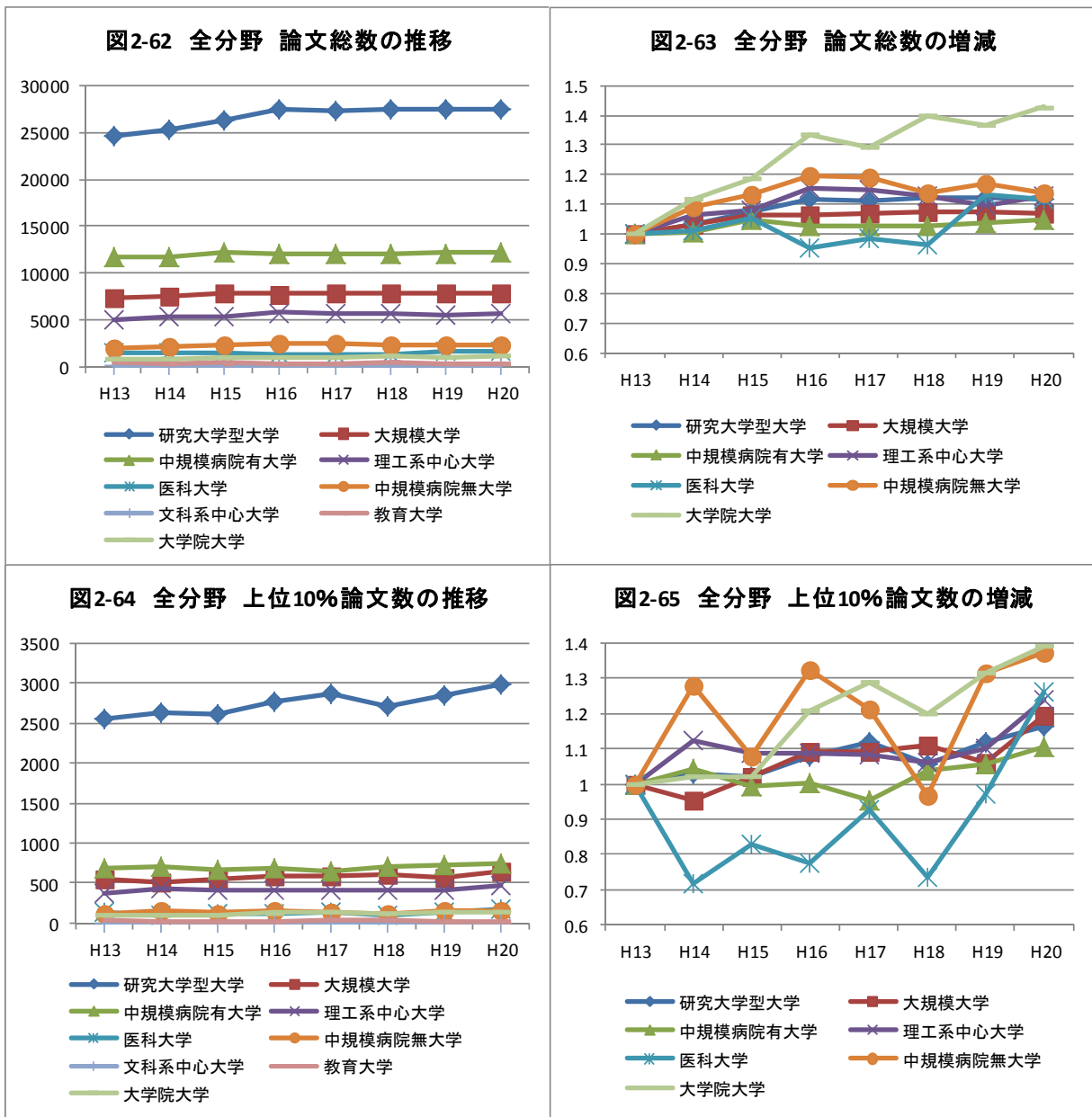


② 大学類型別の分析結果

今まで用いてきた9種類の大学類型と、先ほど用いた8種類の分野区分を用いて論文生産動向の変化をしてみる。

まず全分野合計で論文総数とTop10%論文の大学類型別の変化を見てみると、論文総数において研究大学型大学、大規模大学、中規模病院有大学の順に伸び率が高くなっており、Top10%論文でも中規模病院有大学が相対的に低迷している状況が伺われる（増減のグラフでは、論文数の少ない大学類型は数字の振幅が激しすぎることから除いている。）。また論文総数では、2004年を境に研究大学型大学などで論文数の伸びが止まったような状況が見受けられる。



(出典) Thomson Reuters 社刊行"National Citation Report for Japan 2001-2010 "(NCR-J)に関する根岸正光名誉教授(国立情報学研究所、総合研究大学院大学)の調査統計結果に基づき内閣府作成。